

猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会会議規則

平成12年10月17日 議会規則第1号

改正 令和 5年 1月30日 議会規則第4号

目次

第1章 会議

- 第1節 総則（第1条－第12条）
- 第2節 議案及び動議（第13条－第18条）
- 第3節 議事日程（第19条－第22条）
- 第4節 選挙（第23条－第31条）
- 第5節 議事（第32条－第38条）
- 第6節 発言（第39条－第52条）
- 第7節 表決（第53条－第63条）
- 第8節 秘密会（第64条・第65条）
- 第9節 会議録（第66条－第69条）

第2章 請願（第70条－第74条）

第3章 辞職（第75条・第76条）

第4章 規律（第77条－第84条）

第5章 懲罰（第85条－第89条）

第6章 補則（第90条）

附則

第1章 会議

第1節 総則

（参集）

第1条 議員は、招集当日の開会定刻前に議場に参集し、応招通告書に署名しなければならない。

（欠席等の届出）

第2条 議員は、事故のため出席できないとき、又は遅参するときは、その理由を付け、当日の開議時刻までに議長に届け出なければならない。

（議席）

第3条 議員の議席は、猪名川上流広域ごみ処理施設組合同規約（平成12年8月11日許可。以下「規約」という。）第5条第2項に基づく議員選挙後最初の会議において、議長が会議に諮って定める。

2 規約第5条第3項に基づく議員選挙後新たに選挙された議員の議席は、議長が定める。

3 議長は、必要があると認めるときは、会議に諮って議席を変更することができる。

4 議席には、番号及び氏名標を付ける。

（会期）

第4条 会期は、毎会期の初めに議会の議決で定める。

2 会期は、招集日から起算する。

(会期の延長)

第5条 会期は、議会の議決で延長することができる。

(会期中の閉会)

第6条 会議に付された事件をすべて議了したときは、会期中でも議会の議決で閉会することができる。

(議会の開閉)

第7条 議会の開閉は、議長が宣告する。

(会議時間及び号鈴)

第8条 会議時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、議会の議決があったとき、又は議長が必要と認めたときは、これを変更することができる。

2 休憩中又は会議中に定刻を過ぎたときは、会議時間が延長されたものとみなす。

3 会議の開始は、号鈴その他の方法で報ずる。

(休会)

第9条 組合の休日は、休会とする。

2 議事の都合その他必要があるときは、議会は、議決で休会することができる。

3 議長が特に必要と認めるときは、休会の日でも会議を開くことができる。

4 地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第114条第1項の規定による請求があった場合のほか、議会の議決があったときは、議長は、休会の日でも会議を開かなければならない。

(会議の開閉)

第10条 開議、散会、延会、中止又は休憩は、議長が宣告する。

2 議長が開議を宣告する前又は散会、延会、中止若しくは休憩を宣告した後は、何人も、議事について発言することができない。

(定足数に関する措置)

第11条 開議時刻後相当の時間を経ても、なお出席議員が定足数に達しないときは、議長は、延会を宣告することができる。

2 会議中、定足数を欠くおそれがあると認めるときは、議長は、議員の退席を制止し、又は議場外の議員に出席を求めることができる。

3 会議中、定足数を欠いたときは、議長は、休憩又は延会を宣告する。

(出席催告)

第12条 法第113条ただし書の規定による出席催告の方法は、議場に現在する議員又は議員の住所に、文書又は口頭をもって行う。

第2節 議案及び動議

(議案の提出)

第13条 議員が議案を提出しようとするときは、その案を備え、理由を付け、法第112条第2項の規定によるものについては所定の賛成者とともに連署し、その他のものについては1人以上の賛成者とともに連署して、議長に提出しなければならない。

(一事不再議)

第14条 議会で議決された事件については、同一会期中は再び提出することができな

い。(動議成立に必要な賛成者の数)

第15条 動議は、法又はこの規則において特別の規定がある場合を除くほか、他に1人以上の賛成者がなければ議題とすることができない。

(修正の動議)

第16条 修正の動議は、その案を備え、法第115条の2の規定によるものについては所定の発議者が連署し、その他のものについては1人以上の発議者が連署して、議長に提出しなければならない。

(先決動議の表決の順序)

第17条 他の事件に先立って表決に付さなければならない動議が競合したときは、議長が表決の順序を決める。ただし、異議があるときは、討論を用いないで会議に諮って決める。

(事件の撤回又は訂正及び動議の撤回)

第18条 会議の議題となった事件を撤回し、又は訂正しようとするとき、及び会議の議題となった動議を撤回しようとするときは、議会の承認を要する。

2 議員が提出した事件及び動議で前項の承認を求めようとするときは、提出者から請求しなければならない。

第3節 議事日程

(日程の作成及び配布)

第19条 議長は、開議の日時、会議に付する事件及びその順序等を記載した議事日程を定め、あらかじめ議員に配布する。ただし、やむを得ないときは、議長がこれを報告して配布に代えることができる。

2 議長は、必要があると認めるときは、会議の日時のみを議員に通知して会議を開くことができる。

3 前項の場合、議長は、その開議までに議事日程を定めなければならない。

(日程の順序変更及び追加)

第20条 議長が必要があると認めるとき、又は議員から動議が提出されたときは、議長は、討論を用いないで会議に諮って、議事日程の順序を変更し、又は他の事件を追加することができる。

(延会の場合の議事日程)

第21条 議事日程に記載した事件の議事を開けなかったとき、又はその議事が終らなかったときは、議長は、更にその議事日程を定めなければならない。

(日程の終了及び延会)

第22条 議事日程に記載した事件の議事を終ったときは、議長は、散会を宣告する。

2 議事日程に記載した事件の議事が終らない場合でも、議長が必要があると認めるとき又は議員から動議が提出されたときは、議長は、討論を用いないで会議に諮って延会することができる。

第4節 選挙

(選挙の宣告)

第23条 議会において選挙を行うときは、議長は、その旨を宣告する。

(不在議員)

第24条 選挙を行う宣告の際、議場にいない議員は、選挙に加わることができない。
(議場の出入口閉鎖)

第25条 投票による選挙を行うときは、議長は、第23条の規定による宣告の後、職員をして議場の出入口を閉鎖させ、出席議員数を報告する。
(投票用紙の配布及び投票箱の点検)

第26条 投票を行うときは、議長は、職員をして議員に所定の投票用紙を配布させた後、配布漏れの有無を確かめなければならない。

2 議長は、職員をして投票箱を改めさせなければならない。
(投票)

第27条 議員は、職員の点呼に応じて、順次、投票する。
(投票の終了)

第28条 議長は、投票が終わったと認めるときは、投票漏れの有無を確かめ、投票の終了を宣告する。その宣告があった後は、投票することができない。
(開票及び投票の効力)

第29条 議長は、開票を宣告した後、2人以上の立会人とともに投票を点検しなければならない。

2 前項の立会人は、議長が議員の中から会議に諮って指名する。

3 投票の効力は、立会人の意見を聴いて、議長が決定する。
(選挙結果の報告)

第30条 議長は、選挙の結果を直ちに議場において報告する。

2 議長は、当選人に当選の旨を告知しなければならない。
(選挙関係書類の保存)

第31条 議長は、投票の有効無効を区別し、当該当選人の任期間、関係書類とともにこれを保存しなければならない。

第5節 議事

(議題の宣告)

第32条 会議に付する事件を議題とするときは、議長は、その旨を宣告する。
(一括議題)

第33条 議長は、必要があると認めるときは、2件以上の事件を一括して議題とすることができる。ただし、異議があるときは、討論を用いなくて会議に諮って決める。
(議案等の朗読)

第34条 議長は、必要があると認めるときは、議題になった事件を職員をして朗読させることができる。
(議案等の説明及び質疑)

第35条 会議に付する事件は、会議において提出者の説明を聴き、議員の質疑があるときは質疑を行う。

2 提出者の説明は、討論を用いなくて会議に諮って省略することができる。
(討論及び表決)

第36条 議長は、前条の質疑が終わったときは討論に付し、その終結の後、表決に付す。
(議決事件の字句及び数字等の整理)

第 37 条 議会は、議決の結果生じた、条項、字句、数字その他の整理を議長に委任することができる。

(議事の継続)

第 38 条 延会、中止又は休憩のため、事件の議事が中断された場合において、再びその事件が議題となったときは、前の議事を継続する。

第 6 節 発言

(発言の許可等)

第 39 条 発言は、すべて議長の許可を得た後、その議席で起立して行わなければならない。

2 前項の規定により発言しようとする者は、挙手して「議長」と呼び、自己の議席番号を告げ、議長の許可を求めなければならない。

3 発言の順序は、議長が定める。

(討論の方法)

第 40 条 討論については、議長は、最初に反対者を発言させ、次に賛成者と反対者を交互に指名して発言させなければならない。

(議長の発言討論)

第 41 条 議長が議員として発言しようとするときは、議席に着き発言し、発言が終了後、議長席に復さなければならない。ただし、討論をしたときは、その議題の表決が終わるまでは、議長席に復することができない。

(発言内容の制限)

第 42 条 発言は、すべて簡明にするものとし、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。

2 議長は、発言が前項の規定に反すると認めるときは、注意し、なお従わない場合は、発言を禁止することができる。

3 議員は、質疑に際しては、自己の意見を述べることができない。

(質疑の回数)

第 43 条 質疑は、同一議員につき、同一議題について 3 回を超えることができない。ただし、特に議長の許可を得たときは、この限りでない。

(発言時間の制限)

第 44 条 議長は、必要があると認めるときは、あらかじめ発言時間を制限することができる。

2 議長の定めた時間の制限について、出席議員 2 人以上から異議があるときは、議長は討論を用いないで会議に諮って決める。

(議事進行に関する発言)

第 45 条 議事進行に関する発言は、議題に直接関係のあるもの又は直ちに処理する必要があるものでなければならない。

2 議事進行に関する発言がその趣旨に反すると認めるときは、議長は、直ちに制止しなければならない。

(発言の継続)

第 46 条 延会、中止又は休憩のため発言が終らなかった議員は、更にその議事を始めた

ときは、前の発言を続けることができる。

(質疑又は討論の終結)

第 47 条 質疑又は討論が終ったときは、議長は、その終結を宣言する。

2 質疑又は討論が続出して容易に終結しないときは、議員は、質疑又は討論終結の動議を提出することができる。

3 質疑又は討論終結の動議については、議長は、討論を用いなくて会議に諮って決める。

(選挙及び表決時の発言制限)

第 48 条 選挙及び表決の宣告後は、何人も発言を求めることができない。ただし、選挙及び表決の方法についての発言は、この限りでない。

(一般質問)

第 49 条 議員は、組合の一般事務について、議長の許可を得て質問することができる。

2 質問者は、議長が定めた期間内に、議長にその要旨を文書で通告しなければならない。

3 発言の通告をした者が欠席したとき、又は発言の順位に当たっても発言しないとき、若しくは議場に現在しないときは、その通告は効力を失う。

(緊急質問等)

第 50 条 質問が緊急を要するときその他真にやむを得ないと認められるときは、前条の規定にかかわらず、議会の同意を得て質問することができる。

2 前項の同意については、議長は、討論を用いなくて会議に諮らなければならない。

3 第 1 項の質問がその趣旨に反すると認めるときは、議長は直ちに制止しなければならない。

(一般質問等への規定の準用)

第 51 条 質問については、第 43 条及び第 47 条の規定を準用する。

(発言の取消し又は訂正)

第 52 条 発言した議員は、その会期中に限り、議会の許可を得て発言を取り消し又は議長の許可を得て発言の訂正をすることができる。ただし、発言の訂正は、字句に限るものとし、発言の趣旨を変更することはできない。

第 7 節 表決

(表決問題の宣告)

第 53 条 議長は、表決をとろうとするときは、表決に付する問題を会議に宣告する。

(不在議員)

第 54 条 表決宣告の際、議場にいない議員は、表決に加わることができない。

(条件の禁止)

第 55 条 表決には、条件を付けることができない。

(起立による表決)

第 56 条 議長が表決をとろうとするときは、問題を可とする者を起立させ、起立者の多少を認定して可否の結果を宣告する。

2 議長が起立者の多少を認定し難いとき、又は議長の宣告に対して出席議員 2 人以上から異議があるときは、議長は、記名又は無記名の投票で表決をとらなければならない

い。

(投票による表決)

第 57 条 議長が必要があると認めるとき、又は出席議員 2 人以上から要求があるときは、記名又は無記名の投票で表決をとる。

2 前項の場合において、同時に記名投票と無記名投票の要求があるときは、議長は、いずれの方法によるかを無記名投票で決める。

(記名及び無記名投票)

第 58 条 投票による表決を行う場合には、問題を可とする者は賛成と、問題を否とする者は反対と所定の投票用紙に記載し、投票しなければならない。ただし、記名投票の場合は、自己の氏名を併記しなければならない。

(白票の取扱い)

第 59 条 投票による表決において、賛否を表明しない投票及び賛否が明らかでない投票は、否とみなす。

(選挙規定の準用)

第 60 条 記名投票又は無記名投票を行う場合には、第 25 条、第 26 条、第 27 条、第 28 条、第 29 条、第 30 条第 1 項及び第 31 条の規定を準用する。

(表決の訂正)

第 61 条 議員は、自己の表決の訂正を求めることができない。

(簡易表決)

第 62 条 議長は、問題について異議の有無を会議に諮ることができる。

2 議長は、異議がないと認めるときは、可決の旨を宣告する。ただし、議長の宣告に対して、出席議員 2 人以上から異議があるときは、議長は、起立の方法で表決をとらなければならない。

(表決の順序)

第 63 条 議員の提出した修正案で、同一の議題について、数個の修正案が提出されたときは、議長が表決の順序を定める。その順序は、原案に最も遠いものから先に表決をとる。ただし、表決の順序について出席議員 2 人以上から異議があるときは、議長は、討論を用いないで会議に諮って決める。

2 修正案がすべて否決されたときは、原案について表決をとる。

第 8 節 秘密会

(指定者以外の者の退場)

第 64 条 秘密会を開く議決があったときは、議長は、傍聴人及び議長の指定する者以外の者を議場の外に退去させなければならない。

(秘密の保持)

第 65 条 秘密会の議事の記録は、公表しない。

2 秘密会の議事は、何人も秘密性の継続する限り、他に漏らしてはならない。

第 9 節 会議録

(会議録の記載事項)

第 66 条 会議録に記載する事項は、次のとおりとする。

(1) 開会及び閉会に関する事項並びにその年月日時

- (2) 開議、散会、延会、中止及び休憩の日時
- (3) 出席及び欠席議員の氏名
- (4) 職務のため議場に出席した職員の職氏名
- (5) 説明に出席した者の職氏名
- (6) 議事日程
- (7) 議長の諸報告
- (8) 議員の異動並びに議席の指定及び変更
- (9) 会議に付した事件
- (10) 議案の提出、撤回及び訂正に関する事項
- (11) 選挙の経過
- (12) 議事の経過
- (13) 記名投票における賛否の氏名
- (14) 前各号に掲げるもののほか、議長又は議会において必要と認めた事項
(会議録の配布)

第 67 条 会議録は、印刷し、議員及び関係者に配布する。

(会議録に掲載しない事項)

第 68 条 前条の会議録には、秘密会の議事並びに議長が取消しを命じた発言及び第 52 条の規定により取り消した発言は、掲載しない。

(会議録署名議員)

第 69 条 会議録に署名する議員は 2 人とし、議長が会議において指名する。

第 2 章 請願

(請願書の記載事項等)

第 70 条 請願書には、邦文を用いて請願の趣旨、提出年月日、請願者の住所及び氏名(法人の場合には、その所在地、名称及び代表者の氏名)を記載し、請願者が押印しなければならない。

2 請願を紹介する議員は、請願書の表紙に署名し、押印しなければならない。

(請願の取下げ)

第 71 条 請願者が、請願書を取り下げようとするときは、会議の議題となったものは議会の許可を、会議の議題になる前のものは議長の許可を得なければならない。

2 前項の取下げの申出は、文書によらなければならない。

(請願文書表の作成及び配布)

第 72 条 議長は、請願文書表を作成し、議席に配布する。

2 請願文書表には、請願書の受理番号、請願者の住所及び氏名、請願の要旨、紹介議員の氏名並びに受理年月日を記載する。

3 請願者数人連署のものは請願者某ほか何人と記載し、同一議員の紹介による数件の内容同一のものは、請願者ほか何人と記載するほか、その件数を記載する。

(請願の送付並びに処理の経過及び結果の報告の請求)

第 73 条 議長は、議会の採択した請願で、管理者その他の関係機関に送付しなければならないものは、これを送付し、その処理の経過及び結果の報告を請求することに決したのものについては、これを請求しなければならない。

(陳情書の処理)

第74条 議長は、陳情書又はこれに類するもので、その内容が請願に適合するものは、請願書の例により処理するものとする。

第3章 辞職

(議長及び副議長の辞職)

第75条 議長が辞職しようとするときは副議長に、副議長が辞職しようとするときは議長に、辞表を提出しなければならない。

2 前項の辞表は、議会に報告し、討論を用いないで会議に諮ってその許否を決定する。

3 閉会中に副議長の辞職を許可した場合は、議長は、その旨を次の議会に報告しなければならない。

(議員の辞職)

第76条 議員が辞職しようとするときは、議長に辞表を提出しなければならない。

2 前条第2項及び第3項の規定は、議員の辞職について準用する。

第4章 規律

(品位の尊重)

第77条 議員は、議会の品位を重んじなければならない。

(携帯品)

第78条 議場に入る者は、帽子、外とう、えり巻、つえ、かさの類を着用し、又は携帯してはならない。ただし、病気その他の理由により議長の許可を得たときは、この限りでない。

(議事妨害の禁止)

第79条 何人も、会議中は、みだりに発言し、騒ぎ、その他議事の妨害となる言動をしてはならない。

(離席)

第80条 議員は、会議中は、みだりにその席を離れてはならない。

(禁煙)

第81条 何人も、議場において喫煙してはならない。

(新聞紙等の閲読禁止)

第82条 何人も、会議中は、参考のためにするもののほか、新聞紙又は書籍の類を閲読してはならない。

(資料等印刷物の配布許可)

第83条 議場において、資料、新聞紙、文書等の印刷物を配布するときは、議長の許可を得なければならない。

(議長の秩序保持権)

第84条 法又はこの規則に定めるもののほか、規律に関する問題は、議長が定める。ただし、議長は、必要があると認めるときは、討論を用いないで会議に諮って定める。

第5章 懲罰

(懲罰動議の提出)

第85条 懲罰の動議は、文書をもって所定数の発議者が連署して、議長に提出しなけれ

ばならない。

2 前項の動議は、懲罰事犯があった日から起算して3日以内に提出しなければならない。ただし、第65条第2項の規定の違反に係るものについては、この限りでない。

(戒告又は陳謝の方法)

第86条 戒告又は陳謝は、議会の定める戒告文又は陳謝文によって行うものとする。

(出席停止の期間)

第87条 出席停止は、7日を超えることができない。ただし、数個の懲罰事犯が併発した場合又はすでに出席を停止された者について、その停止期間内にさらに懲罰事犯が生じた場合は、この限りでない。

(出席停止期間中出席したときの措置)

第88条 出席を停止された者がその期間内に議会の会議に出席したときは、議長は、直ちに退去を命じなければならない。

(懲罰の宣告)

第89条 議会が懲罰の議決をしたときは、議長は、公開の議場において宣告する。

第6章 補則

(会議規則の疑義に対する措置)

第90条 この規則の施行に関し疑義が生じたときは、議長が決定する。ただし、議員から異議があるときは、会議に諮って決定する。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

付 則 (令和5年議会規則第4号)

この規則は、令和5年2月1日から施行する。